

【特集.2】あきゅらいず 訪問レポート

オフィス

玄関を入った途端、木のいい香りに包まれます。
会社といえばスチール机が並んだ殺風景なイメージですが、あきゅらいずのオフィスは木の机にカラフルな椅子。明るく開放的な空間にマッチした、生き生きとお仕事をされる“すっぴん美人”“すっぴん美男子”にたくさんお会いしました。みなさんとでも楽しそう。そして健康的！あきゅらいずで働き始めてから自然に、ご自分の食事に気をつけたり生活サイクルを見直したりするようになったそうです。「自分自身が体の内外から健康でないと、お客様に自信を持って商品をお勧めすることはできない」とお話しされていたのが印象的でした。



社員の手作り案内板。簡用な方が多いんですよ！



この日はイベントがあり、子ども達の楽しそうな声で賑わっていました。



会社のエントランス。森の中に入っていくようでワクワクします。



あきゅらいず美養品のオールスター(?) 主力商品がお出迎えしてくれました。



社内には“〇〇委員会”があるとか。休憩室のお茶とお菓子の選択権を持つお茶委員会は人気だそうです。



これは会議室。なんとちゃぶ台！これなら優しいアイデアがドンドンあふれてきそうですね。

南沢さんの「森を作りたい」という想いをカタチにしたのが「森の楽校」です。開放感のある吹き抜けの天井と179畳の空間は、ただそこに居るだけで居心地バツグン！ここではイベントを開催したり、地域の親子に向けて開放したりしています。

森の楽校

また、東日本大震災以来、福島の子ども達を対象に14日間のサマーキャンプを継続して行っています。未来の子ども達への社会貢献に力を注いでいるあきゅらいずを、私達は応援せずにはいられません。

森の食堂

「スタッフに楽しく健康にはたらいてもらいたい。」そんな想いからつくられた社員食堂「森の食堂」。入り口を開くと美味しそうな匂い。靴を脱いであがる食堂は、まるで家に帰ってきたよう。地場野菜や山口県にある“あきゅ農園”のお米など、滋養あふれる食材が料理上手なお母さんたちの手で美味しくて、体にやさしいごはんとおかず生まれ変わり、社員さんたちの健康を支えます。私達がお邪魔した土曜日は、社員さんがご家族を連れて食事に来ていたり、一般のお客さまも大勢いらしたりしていました。あきゅらいず美養品の商品を取り扱う唯一の売店「とりの巣ショップ」も併設されています。ぜひ足を運んでみてください！



メニューは日替わり。一食850円。ボリュームよし、栄養バランスよし。



いただきます～！ご飯は五分づきか玄米のどちらかが選べます。



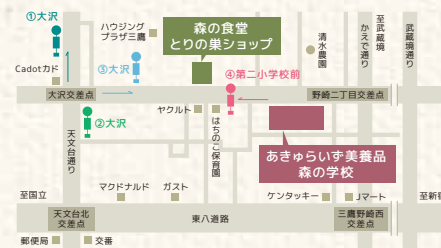
こんなところにも手作りのぬくもりが…さりげないおもてなしがうれしいです。



併設の「とりの巣ショップ」では、対面で商品をご購入頂けます。



毎週水曜日は薬膳料理をお楽しみいただけます。



森の楽校

〒181-0014 東京都三鷹市野崎3-9-27 あきゅらいず美養品 本社1階併設
TEL/080-2567-4600 Email:gakkou@akyrise.co.jp

森の食堂/とりの巣ショップ

〒181-0014 東京都三鷹市野崎3-21-18 株式会社テトテ 1階
TEL/0422-30-9870 営業時間/11:30~14:00【要予約・日祝日休み】

取材を終えて

発表公演実行委員 / 大友・松本・山口

南沢さんにお目にかかるまでは、バリバリの女社長！？と想像していたのですが、実際は自然体で柔らかく、すぐにお友達になれそうな人懐こい笑顔の持ち主でした。お話を聴いているうちに、その華奢な見た目は裏腹に、タフで前向きな姿勢にぐいぐい引き込まれていきました。ご自身は「ただやりたいと思ったことを、ひとつひとつ実現させていっただけ」と謙虚におっしゃっていましたが、その行動力と決断力には圧倒されるばかりでした。

「自分が自分のお医者さんになる」「起笑転結。最後に笑えたらすべて良し」「傍(はた)の人を楽(らく)にすることが傍楽(はたらく)こと」など、南沢さんからステキな言葉をたくさんいただき、う～ん確かに！なるほど!!と何度うなずいたことでしょう。17歳の頃に描いた夢を心に刻み、奮闘努力を重ねた上で実現し、その夢がさらにまた次の夢を生む…そんな充実した毎日を送る南沢さんから元気と刺激をいっぱいいただいたインタビューでした。南沢さん、本当にありがとうございました！！



Kids ミュージカルファクトリー 通信

特別号!



Kids Musical Factory

贅沢な、シンプル
akyrise
あきゅらいず美養品

このロゴマーク、kids ミュージカルファクトリーの公演フライヤーやパンフレットでよく見かけませんか？そう、kids ミュージカルファクトリーを応援してくださっている「あきゅらいず美養品」のロゴマークなのです！！でも「あきゅらいず美養品」って、どんな会社？それは三鷹市にある、スキンケア商品の通信販売会社です。化粧品だけでなく、健康をトータルに考えた商品や社会貢献活動なども手掛けています。

総力特集

今回の「Music in Our Hearts いつも心に音楽を♪」にもご協賛いただいている「あきゅらいず美養品」と社長の南沢典子さんの魅力にkids ミュージカルファクトリーが、迫ります！！

【特集.1】南沢社長へのインタビュー

「あきゅらいず美養品」を細腕一本で立ち上げた社長、南沢典子さんってどんな人？南沢社長と同世代の発表公演実行委員3人が突撃インタビュー！

【特集.2】あきゅらいず 訪問レポート

「あきゅらいず美養品」の社屋は、まさに社風を体現！今回は「オフィス」・「森の楽校」・「森の食堂」を紹介いたします！

あきゅらいず美養品 本社1F ミーティングスペース。ここで打ち合わせなどを行います。



【特集.1】南沢社長へのインタビュー

南沢さんとKidsミュージカルファクトリー。

今回のミュージカルは、音楽をテーマにしているんですが、南沢さんの音楽にまつわる思い出をお聴かせください。

下町で商売をしている店で育ち、職人や祖父母なども一緒に生活していたので、人気のPOPなどの音楽番組を見たり、聴いたりする機会はあまりなかったですね。学校から帰ってくると水戸黄門が流れているような環境だったんです。初めて買ったレコードは、演歌歌手の都はるみの「北の宿から」なんですよ(笑)。流行りの歌は友達の家へ行ったときに聴いていましたね。

あきゆらいずさんは2010年2月に、都心から三鷹市に移転されました。どんなきっかけで三鷹を選ばれたのですか？

三鷹を選んだ理由は三つあります。一つは働くスタッフの8割は女性なので、暮らし、子育てなどの環境を考えると、都会の真ん中から外れた方がいいと思いました。二つめに、地域に溶け込むことがスタッフが長く働ける環境作りに必要なと考えました。そのためには、会社の理念である「心肌体(しんぎたい)」を体感、体現できるような地域を探していました。三鷹は緑が多くて生活や子育てがしやすく、「森の食堂」などを設立できる余裕もありました。そして何より、通信販売をしてお客さまと対面する機会が少ないので、もしお客さまが三鷹にお立ち寄りになった時に、あきゆらいず美食品が地域から必要とされていると感じられたら、嬉しい気持ちになって頂けると考えました。そんな地域とのおつきあいができる物件を探して、この場所と出会えたんです。

*1 心肌体：きれいな肌を作るためには、肌と心と体の全てに働きかけることが大切だというあきゆらいず美食品の考え方です。



社員食堂の「森の食堂」は一般の方も予約をすれば食べに行くことができます。(私たちも先ほどいただきました!) 会社の文化祭でも地域の方を招待されていますね。あきゆらいずさんのコンセプトと場所の雰囲気合っていますよね。

地域の方にも受け入れていただけて、こうなったらいいなと思っていたことが実現しましたね。

三鷹市は市民活動がとても盛んなところですが、なぜ西東京市で活動しているKidsミュージカルファクトリーを応援しようと思ったのでしょうか。

三鷹市に引っ越してきてからいろいろな方とお会いする機会があったのですが、その中で、FM西東京の方に紹介されて、Kidsの練習を見に行く機会を頂きました。そこで繰り広げられている練習風景や、ごんどう先生とまさ先生が愛情をもって真剣に子ども達と向き合っている姿、子ども達の真剣な姿勢に、自分が恥ずかしくなるくらい熱量を感じたんです。そんな厳しい練習の中でも、見学に行った私たちに笑顔で椅子を差し出してくれるお子さん達の心遣いの方に、この子達すごいな、とびっくりしたんです。また、発表会を観てその素晴らしいさに感動し、あの厳しい練習があってこそ、こういうことができるんだ、こういう活動を応援したいと純粋に思いました。子どもにも大人にも、素敵な未来を感じたんです。

ありがとうございます。私たち保護者も自分の子どもが素晴らしい講師達に鍛えていただいているのを、本当にありがたいと思っています。今は核家族化で、子どもが親以外の大人とふれあう機会が少ないです。南沢さんのエッセイの中に、いつも大人がまわりにいたというお話がありますが、親以外の大人から影響を受けた言葉やエピソードがありましたら教えてください。

いつも心にある言葉が3つあります。商売においては、祖父の「自分たちが贅沢をするためにお客様からお金をいただいているのではない」と祖母の「お前は商売に向いているよ」という言葉です。そして背筋をシャキッとさせられる言葉が、いつも身綺麗だった近所のおばさんの「いつ誰に会っても恥ずかしくない自分でいるのよ」という言葉です。子どもの頃に聞かされた話ですが、私の中にズンと落ちていきますね。

そういうお考えは、いつごろから？

小学校4年生のときに、むむの木学園の宮城真理子さんの特集を見て感動し、その後マンガのキャンディキャンディに影響され、看護師や社会福祉の仕事をやってみたいと思いました。自分が実際にその仕事をするプロになるのか、それともそういった理想の場作りをする人になるのか、について漠然と考えていましたね。そんな17歳の頃、夢を実現している大人は、朝どんな顔をして会社に向かっていくのかを見たくて、新橋駅で通勤者を観察したことがあるんです。そうしたら、みんな下を向いていてつまらなそうな顔をしている。夢の実現の場に向かってはすなのに顔が暗いんです。それを見て、自分だったら何ができるかを考えるようになりましたね。

結局、デザインやアートに近い職場を探している中でご縁あって化粧品会社に就職することになりました。美容部員として働いているうちに、肌の問題に悩んでいる人がたくさんいることがわかりました。肌だけではなく、心の問題、体の問題も含めて解決したいと思ったのが、あきゆらいずを始めるきっかけになったんです。そして子どものときの感動を思い出し、作業のいくつかを社会福祉施設の方に依頼することにしたんです。ふと自分の過去を振り返ると、今の仕事はこれまで生きてきた導線上にあって、全てつながっているな〜と感ずることがあるんです。

南沢さんのこと、そして家庭のこと。

南沢さんのプライベートのお話も少しお聴きしたいんですが、南沢さんはお嬢さんが二人いらっしゃいますね。

ええ、16歳と14歳です。

おうちの中で、これだけはゆずれないという南沢家ルールみたいなものはありますか。

あいさつ、片付け、あと、親に頼らない、ということですね。例えば塾に行きたかったら、自分で調べたり手続をしたりする。長女は今オーストラリアに留学していますが、全て自分で決めて、下調べなども自分でしていました。娘たちから「子どもの面倒ちゃんとしてよ!」みたいなことも言われることがあるんですけどね。親がどうしても手伝われないといけない場面になったら、登場するようにしています。普段は娘と話す時間があまりないのですが、週末は親子で出かけたりしますね。娘が、「平日娘とふれあえない母親のために、時間を作ってあげている」って言っていますよ。(笑)

南沢さんご自身シングルマザーで子育てをされていますが、仕事と子育てをうまく両立させるコツみたいなものはありますか。

見ていると、きっとお母さんも子どももガマンしているんですよね。ですから、仕事に行くお母さんが楽しそうかどうかは大切だと思うんです。お母さんが楽しそうにしていると子どもは安心する。お母さんが仕事に行くときの楽しさを見ていれば、(子どもから)仕事に行った方がいいよ、と応援してくれるんです。私の娘たちは、「いつか自分たちが家を出ていくとき、母親が楽しんでいることをしているから安心して家を出られる」と言ってくれています。

大人になって夢を形にするのは簡単ではないですが、南沢さんは実現したんですね。

「自分はどうなりたいのか?」をイメージしながら夢に向かって道を選んできたなら、自然に今に至っただけです。まわりで支えてくれる人がいなかったら、実現はしていなかったですね。それと、走り出した時は知識がなかったために、「できるのかな?」と考え込んでしまわなくて良かったかもしれません。知識を積んでいたら、却って邪魔になってできなかったこともあったかもしれません。最初は決算書さえ読めなくて、勉強している途中で眠くなっていましたから。(笑)

あきゆらいず主催の「森の楽校ラジオ」には素敵な方々がたくさん出演されていますよね。

社会活動を通して知り合った方をお願いしたり、自分が素敵だな、会ってみたいな、と思った方をお願いしています。社会的理念が似ていたり、共感できる社会活動をされている方とは、これからもいい形でつながっていただけたらいいな、と思っています。

今日南沢さんに、「心豊かな子どもを育てる」ことについてのお考えをお聴きしたいと思っていましたが、先ほどオフィスや開放スペースの「森の楽校(がっこう)」を見せていただいて、物質的ではなく心を豊かにするとはどういうことかというのが、わかった気がしました。

今の社会は、やっちゃダメというルールが多すぎるために、子どもから表現力を奪ってしまっている気がします。だから表現できなくて爆発してしまう。それから、子どもをきれいにしすぎていると感じますね。こんなことをしてあげたいというのは親のエゴ。与えるのではなく、何を見つけてくるのかを待っていた方がいいのではないかと思います。子どもがやることを禁止するのではなく、体験させて気づかせることが大事なのではないでしょうか。

南沢さんのラジオを聴いたりエッセイを読んでいると、波瀾万丈の人生をあっけらかんと話されていて、私もできるんじゃないか、とすごく勇気が湧いてきます。

悲劇のヒロインのような気持ちになるときもありますよ。でも自分が泣いている顔をわざわざ鏡で見て、泣き方を工夫してみたり女優気分になってみたり、泣いている自分を客観的に見てしまうんです(笑)。それと「済んでしまったことは楽しく話せるようになる!」が一番なんです。

南沢さんとあきゆらいずのこれから。

今後はどんな社会貢献活動をお考えですか。

最近子どもの育成に関するお話が来ることが多いんですが、これからいろいろお話を聞いた上で、継続的に何ができるかを考えていきたいと思っています。

南沢さんの夢がいろいろな形で実現されてきましたが、今後やってみたいことは。

国境を越えていきたいですね。今やっていることを世界に発信していきたい。世の中に何ができるのかが、自分の関心事なので、仕事とやりたいことが同じなんです。ですから仕事と離れている趣味を作りたいとも思っています。でも、趣味も仕事になっちゃうかな〜。

グローバルに活躍していくあきゆらいずさんを楽しみにしています。今日はお忙しい中、ありがとうございました。

南沢さんとあきゆらいずの理念。

あきゆらいずさんは社会貢献活動に大変力を入れていらっしゃいます。

自分たちが社会活動に力を入れている、という意識はあまりありません。私たちが考える資本とは、経済資本、自然資本²と社会資本³の三つです。この三つの資本が循環して、継続的につながるような活動が大切だと思います。私たちが事業として行っているのが経済活動という収益のある活動ですから、そこから得たお金を循環させることが大切だと考えています。例えば今、私たちは屋久島で地元の方のお仕事につながる農業の六次産業化事業を生み出しました。戦後、家を作るために日本のあちこちで植林が行われましたが、安い輸入建築材により、放棄林が間伐されることがないままの状態が続いています。自然環境を守る間伐を行い、森林からアロマオイルを抽出し体験できるスパを創りました。製品のモノづくりもほぼ島内で行い、雇用も島内で行う。これはまさに、自然と社会と経済の三つの資本が循環するロールモデルだと思います。また、「過疎化した村をどうにかしたい!」という想いから、山口県の農家と自社農園として契約しました。そこで収穫された自然栽培のお米やお野菜を「森の食堂」で使ったり、商品ご愛用者様にプレゼントしたりしています。東日本大震災を機に、仮設住宅へ支援米としてもお届けするようになりました。そうすることで資本がまわり、国内農業を少しでも支援できればいい

な、と考えています。自然資本があるからこそ、社会活動ができる。特別に社会活動という考え方をしなくても、経済活動を社会にどう還元してくのかを考えていけば、うまくまわっていくと思っています。

*2 自然資本：山、森林、川、大気、土壌など自然を形成する要素や、生態系を構成する生物を含む資本。

*3 社会資本：医療施設、教育施設、道路、公園といった公的便益を生産する資本。

*4 第六次産業：農業や水産業などの第一次産業が、食品加工・流通販売も行っている仕事。

